

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	5-3-3		事業名	バス交通維持対策事業			
担当	市)総合交通計画部交通企画課 平野 211-2492						
全体計画							
事業内容	バス交通のあり方の検討 地域の足を確保することを目的に、下記の内容で札幌市としての「バス交通のあり方」の検討を行う。 ・本市におけるバス交通の守るべきサービスレベルの設定 ・本市のバス交通のあるべき姿の検討 ~ バス路線網等の検討 バス交通の利用環境改善 利用促進を図ることを目的に、バス交通の利用環境改善方策の検討や利用促進啓発を行う。 ・利用環境改善方策の整理、検討 ~ 案内サイン、案内図等 ・バス事業者との検討会実施 ・市民へのバス利用啓発 ~ 広報紙等		<年度別の事業内容>				
			[平成19年度] ・バス交通のあり方検討業務 ・バス交通利用環境改善検討(事業者との検討会)・市民啓発 [平成20年度] ・バス交通のあり方検討(有識者勉強会等) ・バス利用環境改善検討(事業者との検討会)・市民啓発 ・バス交通利用環境改善方策策定業務 [平成21年度] ・バス交通のあり方策定(他事業との調整) ・バス交通利用環境改善検討(事業者との調整)・市民啓発 [平成22年度] ・バス交通利用環境改善検討(事業者との調整)・市民啓発				
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容(予算)			
	バス交通のあり方の検討 ・今後のバス交通のあり方を検討する上で必要となるデータを得るため、平成18年度パーソントリップ調査結果に関し、利用者の客層と傾向、地域別利用者数及び交通モード、サービスレベル等について、バス交通に特化した分析を行った。 バス交通の利用環境改善 ・地下鉄駅とバスターミナル等の現況の乗継利便性を把握するため、乗継距離や案内表示等の現況調査を行った。 ・市民が求める広報のニーズの把握及び課題の整理を行うため、これまで実施してきた公共交通関係の広報等を体系別に整理し、公共交通利用者へのアンケートや現地ヒアリング等を行った。 ・市内で運行されている路線バス系統をすべて掲載した「なまら便利なバスマップ」について、第2版を10,000部作成し、配布を行った。 ・公共交通ニュースレター「ゆう」について、「札幌市内バス便利・お得ガイド」として内容を一新し、配布を行った。			バス交通のあり方の検討 ・本市が守るべきバス交通のサービスレベルを設定し、その実現に向けた施策の検討を行う。 バス交通の利用環境改善 ・バス利用を妨げる要因を分析し、交通事業者と協力して改善案及び優先順位を検討・設定し、バス交通利用環境改善方策を策定する。 ・バス交通の利用促進を図るべく、ニュースレターを発行する。			
達成目標の状況							
項目		18年度末(現状)	19年度末(実績)	20年度末(予定)	21年度末(予定)	22年度末(予定)	22年度末(目標)
バス交通のあり方設定		検討	検討	検討	策定	/ 設定(21年度) 策定(20年度)	
バス利用環境改善方策策定		検討	検討	策定			
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
市民との連携、市民参加 ・利用促進策の一環として製作・配布した市内バス路線図「なまら便利なバスマップ」は、市民団体に製作を委託した。 企業等との連携・協働 [資金協力] [人材協力] [情報協力]事業者からバスの運行等の情報を受けながら、事業実施している。 [その他の協力] 市民・企業等が参加しやすい環境づくり							

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	5-3-3		事業名	バス交通維持対策事業		
評価(成果)			課題			
<p>札幌市のバス交通のあり方、守るべきサービスレベルを検討・設定し、これに基づき地域の足であるバス交通を守ることにより、市民が各種施設へのアクセスや生活に必要なサービスの享受を容易にできる、安心で快適な都市生活の持続に寄与している。</p> <p>また、利用環境改善方策を行うことは、利用者の減少傾向を抑えバス交通事業経営の安定化を図ることとなり、これにより不採算路線の退出を防ぎ、地域の足を守ることにつながっている。</p>			<p>バス交通のあり方については、市・市民・事業者の3者の相互協力・理解をどのように得るかが課題となっている。</p> <p>また、利用環境改善方策の実施は、交通事業者の理解及び協力なくしては実現しないことから、事業者への側面支援策等の検討を含め、実現に向けた具体的方策が課題である。</p>			
今後の事業の予定・方向						
<p>バス交通のあり方を設定することにより、バス事業者や市民と協働した実効性ある施策の実施により、適切な地域の足の確保を図る。</p> <p>また、具体的な利用環境改善策の実施を目指すとともに、公共交通ニュースレターによる情報提供等を継続し、公共交通の利用促進を図る。</p>						
事業費の推移						
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計
計画	事業費	12,000	10,000	4,000	3,000	29,000
	財源					
	国・道支出金	0	0	0	0	0
	市内債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
内訳	一般財源	12,000	10,000	4,000	3,000	29,000
予算	事業費	12,000	8,000	-	-	20,000
	財源					
	国・道支出金	0	0			0
	市内債	0	0			0
	その他	0	0			0
内訳	一般財源	12,000	8,000			20,000
実績	事業費	10,160	-	-	-	10,160
	財源					
	国・道支出金	0				0
	市内債	0				0
	その他	0				0
内訳	一般財源	10,160				10,160
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				62.6%
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)						
<p>(全体)</p> <p>概ね計画通りの進捗状況である。</p>						